

籠城したエルサレムは、飢餓に苦しみ、軍隊は四散し、逃げたゼデキヤ王も捕縛され、治世 11 年 10 月に陥落しました。捕囚の民は我々の骨は枯れた。我々の望みはうせ、我々は滅びる(37:11) と絶望しますが、エゼキエルは「イスラエルは一つとなり、すべての背信から救い清められ、神が与えた地に永遠に住み、神の民となる」との神による回復、捕囚からの解放という希望の言葉を力強く語ります。

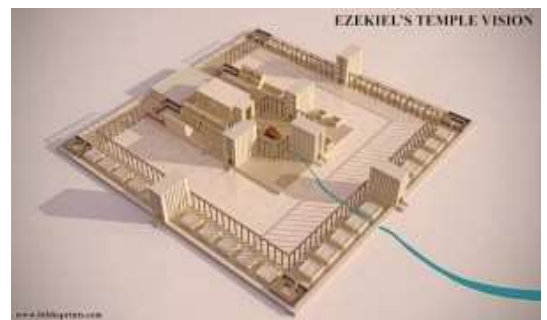


エゼキエル J. Sargent

まず、マゴグのゴグに向かって預言します。ノアの息子ヤフェトの子孫にマゴグ、メシェク、トバルという名前があります(創10:1)。ハムもエジプト人、カナン人の先祖です。イスラエルはセムの子孫ですから、自分以外のマゴグらを敵と見なすのでしょうか。マゴグのゴグとは北の果てからやって来る(38:15)武装した大集団(38:4)で、ペルシャ、クシュ(エチオピア)、プト(リビア)と軍事同盟(38:5)している、略奪者(38:12)であると説明されています。神は「終わりの日」にはゴグを用いるが、今は、いきりたたないように(38:14)、お前が来れば主が立ち向かい(39:1)、倒し(39:5)、墓地に埋める(39:11)と警告しています。さらに、イスラエルの民がこれに打ち向かうために、動物の肉、脂肪を食べ、血を飲め(39:19)と命じています。

捕囚の民となって 25 年、都が破壊されて 14 年目、エゼキエルは 50 歳になったでしょうか。神の幻によってエルサレムに連れていかれ、非常に高い山から都が建設されているのを見るのです。青銅のように輝いている姿の一人の人が手に麻縄と測り竿をもって門の傍らでエゼキエルを待っていました。彼はエゼキエル自身の目、耳、心に都の有様を留め、民に伝えるようにと案内しました。

神殿の外壁、東の門、控えの間、廊門、内庭、多くの部屋を見せ、北の門、南の門の様子も見せました。さらに拝殿があり、その奥に至聖所がありました。神殿は 500 アンマ(225m) 四方の正方形で、建物とその細部まで決められた長さ、高さ、厚さで建てられていました。エゼキエルが見ていると神の栄光が東の方から到来しつつあり、大地はその栄光で輝いていました。主の栄光が神殿を満たし、中からここに私の王座を置くと声が聞こえました。



エゼキエルの幻の神殿

神殿の律法、祭具、祭と安息日の定め、祭司のつとめ、聖域、捧げ物など、規定を教えました。そして聖所の門は閉じられたままにせよと命じました。最後にエゼキエルは神殿の敷居の下から水がわきあがって、東の方に流れているのを見ました。



イスラエルの嗣業の土地についても主の言葉が語られました。まず、土地を平等に割り当てるのが原則です。国土の中心部、東西、南北 2 万 5 千アンマ(11.25 キロ)を献納地とし、その中央に 4500 アンマ(2 キロ)四方の都エルサレムを置き、都の中央に、500 アンマ四方の神殿を置きます。それ以外の献納地を、祭司のレビ族と君主と外国人の土地としました。とてもコンパクトです。レビ族の代わりにヨセフの息子マナセとエフライムで12部族とし、等分に割り当てます。そして、この都の名は、その日から「主がそこにおられる」と呼ばれるといいます。エゼキエルは愛の神を中心として、すべての民が平等に暮らせる新しいイスラエルの幻を捕囚の民に語り、信仰と希望を伝えたのです。537 BC の解放まで、捕囚の民はさらに 35 年待つことになるのです。